

第 524 回 大学院セミナー

共催：東京歯科大学ウェルビーイングプロジェクト



咬合異常の多様性を理解する －見える異常から見えない異常まで

演者 山口 泰彦 名誉教授

北海道大学
名誉教授/歯学研究院招へい教員

日時：2026 年 **6 月 1 日** (月)

17:00~18:00 西棟ラウンジ

顎機能障害との関連性など，咬合異常が生体に及ぼす影響については，これまで長年にわたり様々な議論がなされてきたが，結論がでていないことも多い．その大きな要因の一つは，咬合異常が多様であるにもかかわらず，そのことが見落とされ，画一的な捉え方，対応法の思考パターンから抜け出せていないためであろう，

また，臨床では，明らかな咬合異常の所見が認められない難治性の咬合違和感/異常感のケースに遭遇することがある．原因をすべて心理社会的因子に結びつける歯科医もいれば，一方で，いわゆる正常咬合との違いが少しでもあれば，確信的に不可逆的な咬合治療介入を行う歯科医もいる．しかし，咬合の異常感/違和感は単純ではなく，歯科医サイドで検出できていないだけの不顕性の（マスクされた）咬合異常や，患者が長年慣れた咬合状態から急激にいわゆる正常像とされる咬合形態に変わったことに順応できない個性的な咬合異常の存在もあり得る．演者はこれまで上記のような咬合異常の多様な側面を網羅的に分類し整理してきた．講演では，その分類の考え方を通して，多様な咬合異常の捉え方，臨床での対応の仕方をお話する．

山口泰彦編著．歯界展望別冊ブラキシズムの診断・治療・管理可視化がもたらす新たな展開．医歯薬出版，2025
山口泰彦，後藤田章人．顎関節や咀嚼筋を考慮した咬合異常への対応法．日補綴会誌 2021；13：213-218.
山口泰彦．顎関節の形態変化や咀嚼筋障害に起因する二次的咬合異常．日補綴会誌 2018；10：123-128.
Yamaguchi T, Mikami S, Okada K, et al. Prosthodont Res Pract 2007; 6: 173-180.